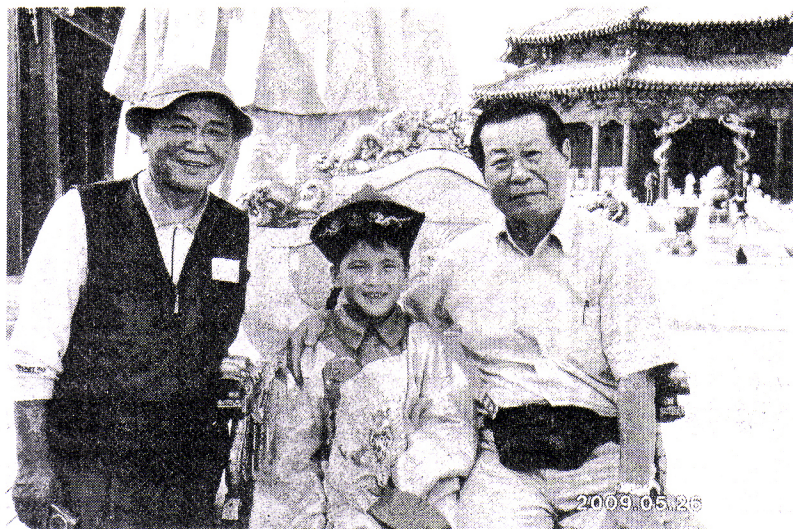




貸し衣装の子どもと＝右が山本さん

ことわざに「旅は道連れ、世は情け」がある。一人では何かと不安な旅でも道連れ、同行者がいれば心強い。世間を渡るにも互いに思いやりの心を持って助け合って行けということであろう。

しかし、最近はこの霧閉気を感じさせない旅が多い。海外旅行の多くは旅行業者が募集する団体旅行。料金が格安なので利用者も多い。海外となると最低でも二、三日。長い旅になると十五日にもなる。

一緒に食事する回数も四十回を超える。しかし、旅行業者は個人情報保護だからと、旅

行者名簿もなければ最初の自己紹介もない。私の大抵の旅は旅行業者の企画ではなく目的を持った旅が多い。例えばこの二十日出発のカンボジアへの旅はボル・ポト時代の地雷被害者支援。すでに世話人から参加者名簿が届いている。

しかし、一般ツアーは空港に行つて初めて参加人数がわかる。個人情報保護も大切だが、せめて出身県と名前、人数ぐらいは事前に配布すべきだと思うのは私だけだろうか。

とは困った傾向だ。聖書の創世記にあるように、神は人が一人で行くのは良くないと同伴者を作つて下さったのだ。

さて、今回の旅は一般ツアーで「瀋陽、大連、旅順、中国・東北ハイライト四日間」。同伴者はトルコの旅で友人になった山口の元教師、山本さん。私が奉天生まれと知つて声を掛けて下さった。

トルコの旅で同じ山口県ということから親しくなり、旅の終わりに住所を交換した。し



左端が最初に声をかけた橋本さん

最近と同じマンションに住んでいてもあいさつもしない。個人主義というより利己主義で他人とかかわりを持たない風潮が強い。それに慣れて、人と接するのがわずらわしい。

ばらくして旅行中の写真と旅行記まで送つて下さり、交流が始まった。これぞ「旅は道連れ、世は情け」だ。彼は誰にでも気軽に声を掛け、その場を明るい雰囲気にする。山本さんにならつて旅の同行者が良き道連れになるよう心掛ける。福岡空港で搭乗のために並ぶ。女性なら下

心ありと誤解されるかもしれないが、男性なら大丈夫。「どちらからですか？」「下松です。もしかすると新周南に巡礼記を書いている藤屋さんでは？」

びつくりである。早速、良き道連れとなる。こうして旧満州への旅が始まった。（元山口放送取締役ラジオ局長）

サビエル生誕五百年

巡礼の道

161

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

乃木・ステッセル会見所前の同行者22人

